



子どもたち 先生方の笑顔のために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和5年11月24日発行

第21号

中信教育事務所

ご意見はこちら→ ←過去の「共に歩まん」はこちら

つな
げる

シリーズⅢ「教育課程研究協議会特集」⑥ 国語、特別支援教育

【国語】 上松町立上松小学校（第1学年）

単元名：「しらせたいな 見せたいな」

【目指す子ども像】

- 心を開き、心を合わせ、かかわり合う喜びを感じる
- 見つける、みがく、時間いっぱい取り組む清掃活動
- 自分の思いや考えをもち、もの・こと・人にかかわりその思いや考えを伝える



〈本時の子どもの育ち〉

来春入学の年長さんの体験入学を意図的に話題にしたS先生。子どもたちは「分からないことがあると思うから教えたい!」「入学を楽しみな気持ちになって、安心してほしい!」と、目を輝かせました。S先生と子どもたちは、「ねんちょうさんに上小おすすめスポットずかんをおくろう」という言語活動を共有し、単元を進めていきました。「目的」と「相手」を明確にした言語活動の設定が、子どもたちの「書きたい」や、表現の吟味を支える環境となっていました。W児は、保健室での「自分の経験」を図鑑に載せようと考えていました。本時、友とのかかわり合いを通して得た、「魅力的なもの」や「魅力的な人」という視点で保健室を見直したW児。目的に応じて図鑑に載せたい情報を付け加えていきました。

目指す子どもと出会うために

1. 「書きたい」「話したい」という思いをもち、どの子ども安心して活動に取り組むことができるような支援の仕方や環境のあり方を考える。
2. 友とのかかわり合いの中で、自己の表現を高められるような場の設定や、そのための有効な支援・指導の方法を考える。

【特別支援教育】 小谷村立小谷中学校（第3学年）

単元名：「関数 $y=ax^2$ 」(数学)

【目指す生徒像】 とともに学び、夢を拓くひと～自己肯定感が高い生徒～

- (1) 自尊感情(自分には価値があると思える)
- (2) 自己受容感(ありのままの自分を認める)
- (3) 自己効力感(自分にはできると思える)
- (4) 自己信頼感(自分を信じられる)
- (5) 自己決定感(自分で決定できる)
- (6) 自己有用感(自分は何かの役に立っている)



目指す子どもと出会うために

1. 学び合う環境づくりのためのジグソー学習
2. 数学の見方・考え方を働かせるためのグループ編成
3. 仲間のよさを共有し感じ合う「交流及び共同学習」

〈本時の子どもの育ち〉～交流及び共同学習の視点から～

Aさんは、Bさんから $y=ax^2$ のタイルの合計の枚数を求める問題についての質問を受けたとき、「1段目ではタイルが1枚、2段目ではタイルが4枚になるんだよ。」と、段の数をX段、タイルの枚数をy枚とすると $y=ax^2$ であることが分かるようにアドバイスする姿がありました。事前に教科担任と特別支援学級の担任が連携し、Aさんが自分のつまずきに気づき、友に相談しながら自己受容感が育まれるグループ編成にしたこと、説明の仕方を事前に友と練習し自信をもつ場を設けたことで、本時、AさんはBさんに分かりやすく伝え、自己有用感を高めることができました。